



# 春色の汽車に乗って

松本隆

寒空の中でお花屋さんへ春を運ぶ、スイートピー。  
ふわふわとした優しい姿と、甘い香りがとても可愛らしい花です。

スイートピーはイタリアのシチリア島が原産です。その歴史は意外に新しく、ある神父が十七世紀末に修道院の庭に、突然変異の豆の花を見つけたのが始まりでした。十九世紀にはイギリスで品種改良が進み、この花を愛した英国アレクサンドラ王妃が舞踏会や晩餐会などでたくさん飾ると、人々の間に一気に広まっています。

日本で栽培が始まったのは大正時代ですが、大きな貢献をしたのが「スイートピーの荒木」と呼ばれた荒木石次郎。

場所は玉川温室村という、当時「東洋一の規模」と言われた巨大な温室村でした。これは現在の田園調布あたりになります。

その頃のスイートピーは花の持ちが悪く、市場に近い場所で作るしかない植物でした。その後、薬剤によって日持ちを長くできるようになり、爆発的に産地も広がります。生産者さん達の努力によって、花が大きく、茎も長い日本のスイートピーは世界一の品質と輸出量を誇ります。

今では日本のスイートピーは『世界一のスイートピー』になりました。

蝶のように羽ばたくスイートピーの花言葉は「門出」。  
幸せな旅立ちを祝福してくれているようですね。

(「赤いスイートピー」 歌 松田聖子、作詞 松本隆)

## 花物語

比田井宗玉

